

講演1 タロコ語と日本語の比較から迫る身体運動： 言語・認知の関係とその普遍性

里 麻奈美先生（沖縄国際大学・准教授）

身体運動と事象認知や言語使用は、一見互いに独立した活動に見えるが、実は密接した関係にある（身体化された認知 (embodied cognition), Barsalou, 1999）。動詞先行型危機言語であり語順の交替 (VOS・SVO語順) が可能なタロコ語と、それとは真逆の語順を持つ動詞後続型言語である日本語 (SOV) を対象とした視線計測を用いた産出実験の比較をもとに、身体運動が「誰が誰に何をした」という事象認知過程の順序、ならびに言語使用（語順やヴォイスの選択）に与える影響について探る。また、身体運動と認知プロセス・言語処理とのインタラクションがあるとなれば、それは言語普遍的か、または運動情報を内包する動詞の位置 (VOS vs. SOV) によって異なるのかについても注目する。

講演2 日本人英語学習者の繰り上げ構文の理解に見られる介在効果と主語について

中山 峰治先生（オハイオ州立大学・教授）

吉村 紀子先生（静岡県立大学・客員教授）

本考察では、私たちの一連の実験調査の結果に基づき、繰り上げ構文は経験者句による介在効果のために日本人英語学習者にとって理解がむずかしく、習得が遅れることを明らかにします。そして、日本人英語学習者の中間文法では、英語母語話者の文法 (John seems John to be taller than his father) と異なり、A-移動が物理的に起こるのではなく、日本語からの母語干渉のために主語は主文節の主語の位置 ([Spec, TP]) に基底生成されるのではないかと考え、その仮説を実証分析によって検証します。繰り上げ構文の第二言語習得研究はほとんど実施なされていない状況を鑑みれば、本研究が今後の議論の発展に繋がることが期待されます。

日時：2019年7月5日（金）16:30～18:30

場所：東北大学川内南キャンパス
中講義棟（2階）文学部第2講義室

事前予約・参加費：不要 使用言語：日本語

【問い合わせ先】

木山幸子（東北大学大学院文学研究科）
skiyama/at/tohoku.ac.jp (/at/を@に変えてください)

東北大学 川内南キャンパス
中講義棟 (C18) 文学部第2講義室



仙台市青葉区川内27-1
地下鉄東西線国際センター徒歩5分